

Bonjour! Comment ça va?

Burkina Faso からこんにちは。

現在、稲作栽培の職種でブルキナファソにて活動中の山田真裕美です。ここブルキナファソでは1年に1度の雨季が終わり、農作物（特に穀物や大豆・小豆・ラッカセイなど）の収穫が終わりました。

ブルキナファソの主要な農作物は、トウモロコシとソルガム（モロコシの一種）やヒエ、そしてコメです。



雨季が近くなるとみんな一斉にダバ（持ち手の短い鍬）で畑を耕します。牛やロバを使って耕しているのは、お金のある農家で、ほとんどの農家が手作業で、1ヘクタールや2ヘクタール平気で耕します。

私もこの作業を何度か手伝いましたが、本当に重労働で、この疲労感といったら、銭湯に行きたい！冷たい水が飲みたい！と叫びたくなるほどです。

でも農家は、銭湯のない、冷たい水など得られない炎天下の中を、これしか方法がないんだ！とってみんな必死に耕しています。

農業に使うことのできる水は、主に雨です。

モーターポンプを使って川や溜池から水を引いて農業をすることができるのは限られたお金のある、そして立地に恵まれた農家で、ほとんどの農家はお天道様に願うのみです。

つまり、今年のように雨の少ない年は、必死に耕しても、小さくしか育たなかったトウモロコシを仕方なく収穫して食べるほかないというのがとても歯がゆいところです。

雨季一回目の今年、バフォン（雨季、溜池の水があふれて湿地のようになる場所）で稲作栽培を行いました。しかし私を含めほとんどの農家は、生育初期の成育旺盛な時期に水が得られず、期待した収量を得られませんでした。

私はここで、どうにか工夫（栽培の時期を見直す、畝を作る、水路を作る、ほかの収量低減の要因をなくすなど）して、収量を上げられないかと考えながら農家と一緒に活動しています。



ここまで聞くと、なんだ、すごい大変そうなところだなあと思う方もおられるかと思いますが。

確かに、生活は楽ではないと思います。しかし、私が初めてブルキナファソに来た時に驚いたのは、その生活の厳しさ、金銭的な貧しさとは裏腹に、人々が分け合うということをして自然にしているということです。



その代表的な習慣が、食事に見られます。

人々は、毎日、誰かが訪問して来たら分けてあげられるようにと食事を多めに作ります。

誰か夕飯を食べに来る約束をしてるの？と聞くと、それはないけど、もしかしたら誰か来るかもしれないから。とって作るのです。

そして、おなかいっぱい食べてまた炎天下の中を必死に働きます。

私はここブルキナファソで、貧しいということはどういうことなのかを日々考えます。

そして、彼らの大切にしているモノが、これからも大切にされて親から子へと続いていくことを願ってやみません。

私にできることは少ないですが、残りの1年間、彼らの生活が少しでも豊かになるように、できることをしたいと思っています。

このような貴重な経験をさせてもらっていることにとても幸せを感じています。

いつもありがとうございます。

2014年12月8日ブルキナファソ稲作栽培 山田真裕美